

私の新年状

新年にあたって、才一線
で活躍している留萌出身者
の方から、年賀状をいただ
きました。

係では、このほかに、北
の富士、松本隆、さんも予
定していましたが、原稿未
着のため掲載できません。

よ。う。
ほどこいた腕ぐみまくん
海を見つめる親方だ
あかがね色のその腕は
風に冷たく粉をふいた
ちぢれたまつげをふるわ
せて
船をまつてる親方だ
便りのないまま北国の
春も今ではたけていた
(名取和彦 作詩)

残された町の浜に、港に
街路樹に、孤独の影が落
ちる頃、上京して以来二十
年間、東京から、わが町に
陽の当る事を念じながら、
音楽を続けてきた。
わが故郷、留萌の人々が
「待つ事」を止める、積極的
に、市の持つ個性を
育成すれば、熱っぽい町、
留萌は、更に時代の脚光を
あびるであろう。
今年も、留萌の発展に負
けずに競走だ。頑張らなけ
ればならない。



留萌こそ詩情のまち

作曲家 古巻 勝

留萌の皆様、あけまして
おめでとございます。
昭和四十一年の新春を迎
へ、他郷にあって留萌を偲
び、留萌の発展を心から祈
る者の一人として、留萌に
まつわる身辺雑記を綴り、
年頭の御挨拶と致します。
誰でもがそうであるよう
に、自分の故郷を誇りたが
る。特に東京人は北海道と
言う言葉のヒビキに弱い。

僕が北海道生れである事を
知ると、ほとんどの人が羨
しがる。然し、今から二、
三年前迄は、留萌を知る人
は少なかつたし、とんでも
ない原始的な質問を受けた
ものだが、近年の留萌市の
発展振りと、北海道観光ブ
ームの影響で、その名も全
国的となり、非常に心強く
嬉しく思う。

松山善三氏と仕事をした
時に、ふと北海道の話にな
った。僕の出身地留萌の地
名が彼の口から出た。二、
三年前に、シナリオハンテ
ィングで留萌に行ったそう
で、わが町に、ドラマの種
を求めた氏の卓見に讃辞を
呈したものであった。
松山氏曰く「鉄道案内図
で見ると、札幌から五セン
チ程北の方なので近いと思
ったけど、ものすごく遠い
んだネ」氏は鉄道の案内図
がイビツであるのを、うっ
かりされたのだろう。
留萌は北海道一巡コース
からそれては居るが、その
海岸の景観は雄大で、70ミ
リ映画的であり、人情は、
新雪の如きさわやかで、
ラーメンよりも濃厚である
し、とにかく、常識的な観
光ルートから目を転じて、
留萌を知る人こそ、その道
の通である等と、しばし留
萌の話に僕は夢中になった。
タークタククスより、作
曲を依頼されている、「男三
題」の一部。嫌は今年も来
なかつた」の一筋を抜粋し



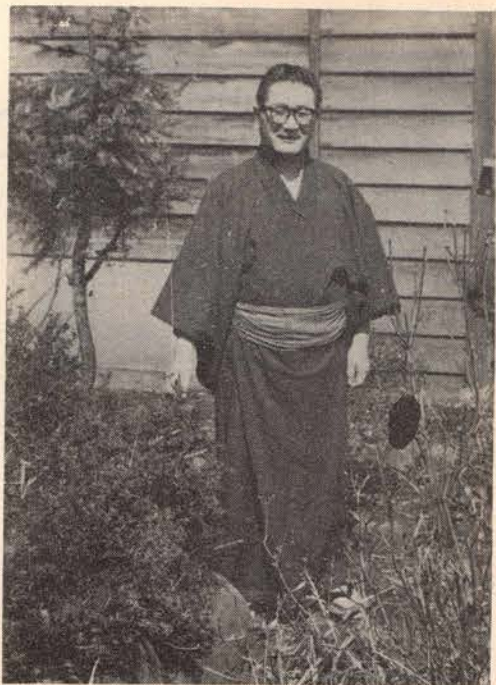
留萌人の誇りを刀跡に

版画家 阿部貞夫

謹しんで新春のお慶びを
申し上げます。
なつかしい留萌の皆さん
に、広報紙を通じて年賀の

言葉をお届けできる幸せな
機会を与えてくださった市
長さんに、厚くお礼を申し
げます。留萌名物の吹雪の

中で皆さんにはお元気に
いお年をお迎えのことと存
じます。私もお蔭さまで多
くの仕事に恵まれ新春を迎
えましたが、特に多色刷の
木版画に於ては、彫刻と摺
の労作に耐える体力と、長
期に亘ってイメージを追究
する根拠と、新鮮な詩情を
必要とします。大前前のこ
とですが四十栄助三郎氏よ
り「版画のために健康に注
意して欲しい」と有難いお
便をいただきました。この
お言葉は「郷土の忠告」と
思って充分心がけ健康才一
を実行しています。弱い方
ですが幸いに健康を保ち、
厳しい風土で培われたバ
ックボーンをもって版画道
一筋に精進しておりますか
らご安心下さい。特に年頭
の決意という程のことでは
ありませんが、美術家は常
に平和の使徒であるとい
う自覚と、独自の風格に立
つという祈りをこめて今年も
亦刀跡を積み重ね、ご期待
に応えるようなよい仕事を
したいと願っています。
最後に港都留萌の発展と
四万市民の皆さんのご健康
を心より祈念して年頭のご
挨拶にかえます。



初ぶろ

留萌市長 原田 榮一

新春随想

ぬるくないかな？ わた
くしはふろの湯の表情には
どういうものか神経が走っ
ていく。ピリツとひふにく
る湯が好きなためかも知れ
ない。
けさは自分で点火した。
ずーと石炭だったが、き
よねん秋から石油にきりか
えたら手軽になつた。
元日は男が先に起きるも
のだからナ……。ひとりか
てんして火をつけた。
まだ外の暗いけさのふろ
には、湯の音に新鮮なひび
きがある。あつすぎる。水
をひねる。
水は、いきおいよく流れ
出る。これも若水だが若水
にしては威勢がよいナ。
わたくしは大きくかきまわ
した。
初朝、初ぶろ、初男一か
ゆつたりとひたる。わた
くしのあたまたまにポンポンと
でてきたが、「初男」のと
び出したのにハッとした。
いや、やはりけさのおれ
は初男にちがいないわい！
わたくしは笑ってしまつた
が、すぐ気がついた。
けさは、自分だけが初男
ではない。
十月の国勢調査の結果は
四万二百三十人と留萌市の
人口がでた。
女が四百七十何人か多か

つた。けさは留萌中初男と
初女、女は美女としておく
か。そのほかにたれもい
ない。
美女の発言力が強くなる
かもしれないぞ。そうする
とことしは……と浮んだが
先がずーと消えてしまつた
タオルを動かせば湯が音
たてる。じつとしていれは
あまりにも静かである。
黙浴黙想の境地を堪能す
るため、わたくしは朝のふ
ろを愛して来た。
せいたくという人もある
かもしれない。しかし晩の
ふろは、いまのわたくしに
はあわない。六時まで掃宅
できるのは、週一日か二日
毎日どうしても「公務上の
アルコール」が体にはいる
うどん、カレーライスが
わたくしの好物で家族だん
らんのこととは、ぐつぐつと
寝るのだ。
朝ぶろからは、一日の鮮
味と期待と意欲がわたくし
の体内にみちあふれる。
けさのふろからは、新年
一年間へのそれらがあふれ
る。
ことしもこの意気、この
意気……。わたくしは両足を
つっぱつた。
うつらうつらした耳にな
にかひと声はいつた。初ど
りの声かナ。